

◆ 今週のコメント

- 手足口病の定点当たり報告数は、1.44(59例)で、第30週(7月22日～7月28日)以降、15週連続で過去5年平均値を上回っています。本年、京都市衛生環境研究所で分離・検出した手足口病由来のウイルスは、コクサッキーウイルスA6(CA6)14例、エンテロウイルス71(EV71)2例となっています。(11月7日現在)
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は0.85(35例)で、前週 0.51(21例)に比べ約1.7倍増加するとともに、過去5年平均値を上回っています。今後の動向にご注意ください。
- 水痘の定点当たり報告数は1.15(47例)で、前週 0.61(25例)に比べ約1.9倍増加するとともに、過去5年平均値を上回っています。例年、12月に向かって報告数が増加しますので、今後の動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.10(45例)で、第34週(8月19日～8月25日)以降、11週連続で過去5年平均値を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

ありません

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.10	127
	② 手足口病	1.44	59
	③ 水痘	1.15	47
	④ RSウイルス感染症	1.10	45
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.85	35
眼科	流行性角結膜炎	0.90	9

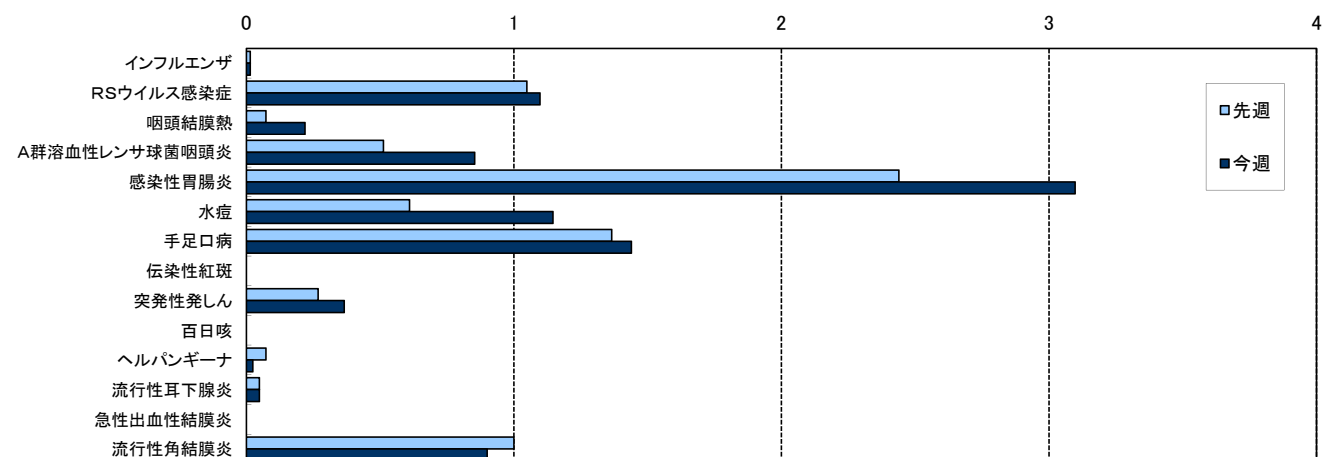
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

(注) 京都市のデータは、平成25年11月7日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

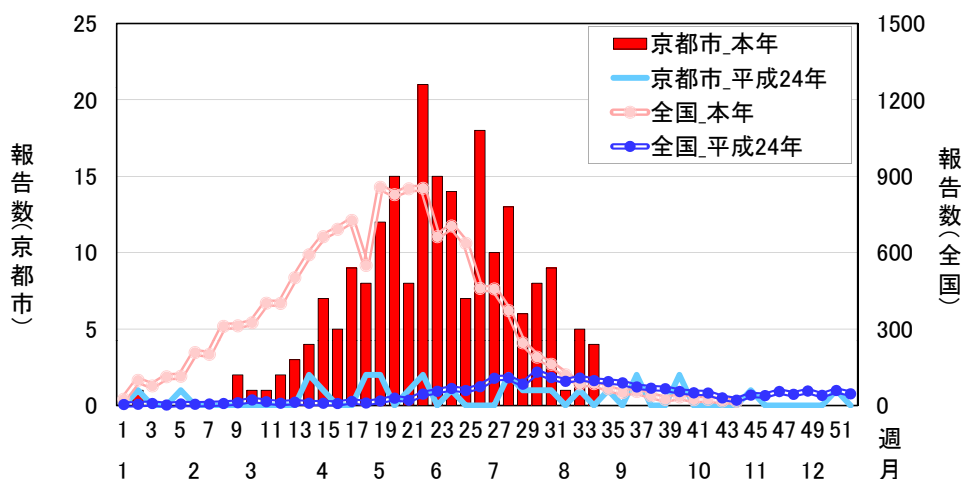
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第44週)と先週(第43週)の定点当たり報告数の比較



2 風しんの推移

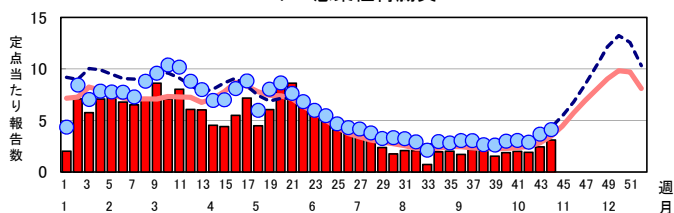
今週の報告数(累積報告数) 平成25年11月7日現在	
京都市	0例 (209例)
京都府(京都市を除く)	1例 (113例)
近畿6府県	3例 (525例)
全国	16例 (14234例)



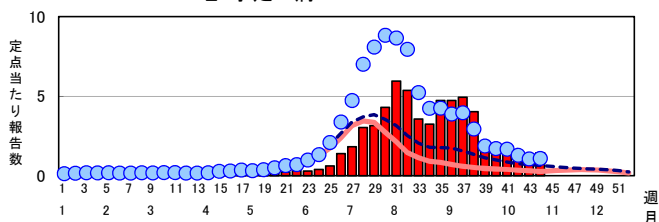
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

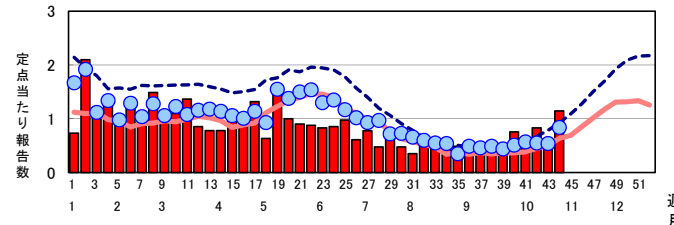
1 感染性胃腸炎



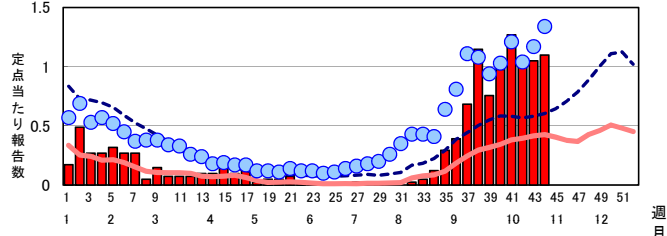
2 手足口病



3 水痘

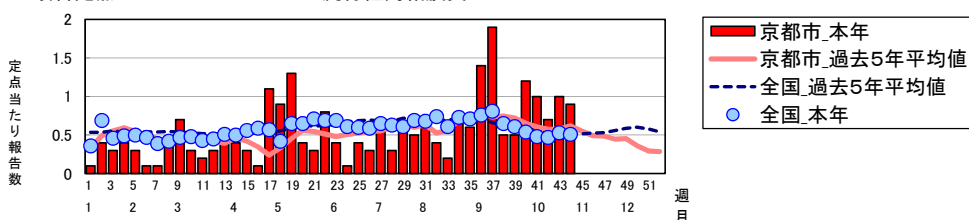


4 RSウイルス感染症



<眼科定点>

流行性角結膜炎



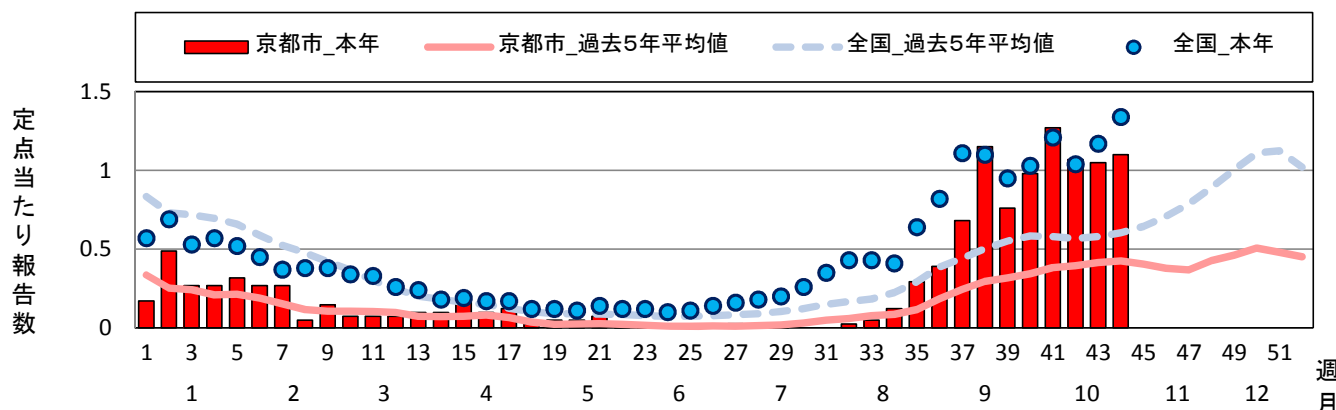
第44週(10月28日～11月3日)トピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.10(45例)で、第34週(8月19日～8月25日)以降、11週連続で過去5年平均値を上回っています。「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降の同時期と比較して、最も多い報告数となっています。全国においては本年で最も多い定点当たり報告数となっており、過去5年平均値を大きく上回る状態が続いています。今後の動向にご注意ください。

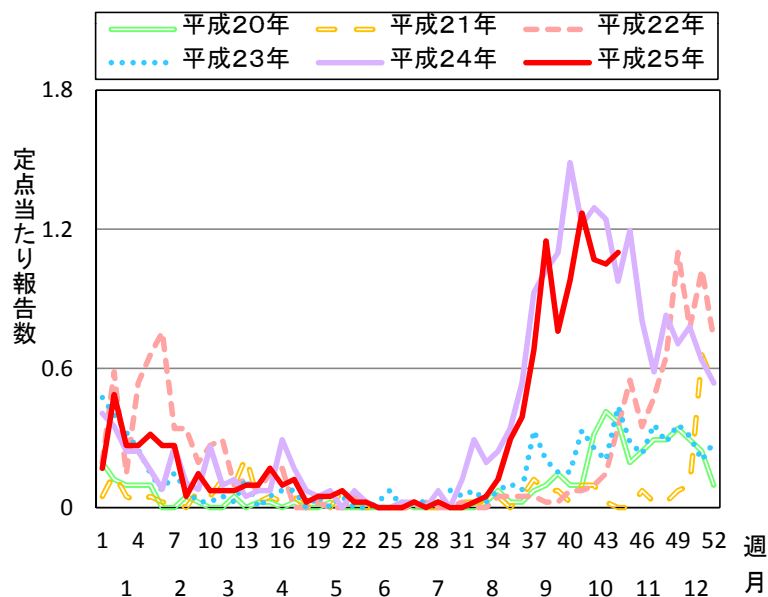
都道府県別では、47都道府県中29都道府県で前週よりも増加しています。また、近畿6府県においては、京都府、滋賀県、大阪府、兵庫県の4府県で前週よりも増加しています。

年齢階級別では、6～11箇月が11例(24.4%)と最も多く、次いで1歳 9例(20.0%)、0～5箇月及び2歳、3歳 各7例(15.6%)となっています。

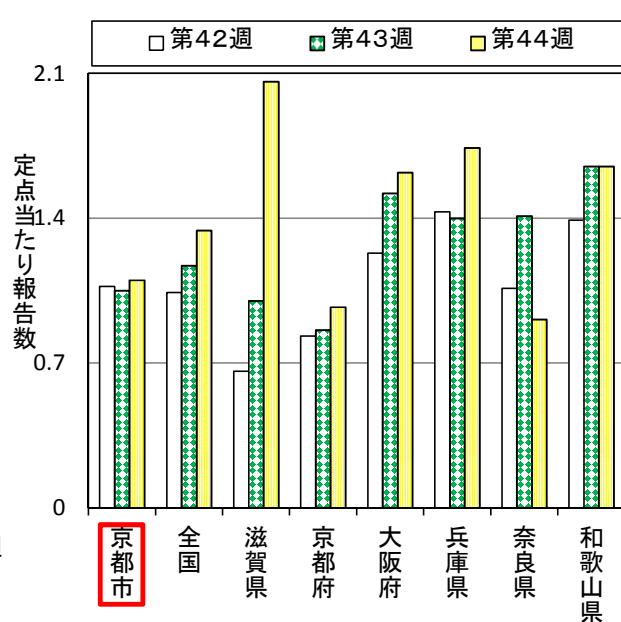
京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



京都市の定点当たり報告数の推移



京都市及び近畿6府県の定点当たり報告数の推移



京都市の年齢階級別の推移

